

令和5年度 学校教育計画 最終評価

教育理念	— 真理の探究 — 自他の敬愛 — 責任の完遂
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるととも、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸ばさせる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。
中期目標	(1) ライフプランを考え、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究
今年度の重点目標	① 系統的・体系的キャリア教育の展開に基づく適切な科目選択をとおして、学力向上を図り、生徒の進路実現を目指す ② 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、多面的な学習評価とICTの活用による知識の定着と実践的思考力や応用力の涵養、探究的な活動の支援 ③ 地域・地元企業・保護者との連携、体験入学や公開授業などを通じ、中学とより緊密に交流する開かれた学校づくり ④ コロナ後の学校の教育活動の活性化と個々の生徒に寄り添うとともに、いじめや体罰のない安心安全な環境を確保する。

総合評価

・昨年度に引き続き、新学習指導要領にそった多面的な学習評価を実践することができた。昨年度以上にICTが活用され実践的な活動や探究的な活動の支援に大いに活用することができ、生徒の思考力や表現力の涵養につなげられた。

・コロナ5類移行に伴い、桔梗祭、PTA総会や講演会、体験入学をはじめ、コロナ前の活気ある数々の教育活動を実践する環境を整えることができた。また、その様子を#ShigakuやSNSで伝えたり、学校に来ていただくなど、中学校や地域に情報を発信することで、開かれた学校づくりに向けた取り組みを積極的に行うことができた。

・一人一人の生徒に寄り添う生徒支援を継続するとともに、生徒にとって学校が安心安全な場所であり続けるために、細やかな対応と外部機関との連携をさらに強めていきたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 生徒が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③	ア 月暦・日課等の作成と周知徹底、状況に応じた日程変更と周知徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 各種研修の推進、サポート	B	・多角的な学習評価により、生徒の意欲や関心が明示され、それを基に研修、授業研究することができた。 ・コロナ前の公開授業・体験授業の形に戻し実施することができた。参加中学生も例年を上回り、総合学科の特徴や学校の様子を知っていたく機会を多くの生徒に向けて設けることができた。	・ICT機器を活用した授業に限らず、新課程に沿った授業を、教師間で共有できる機会や方法をさらに模索していく。 ・出前授業をする一方で、校内の授業に支障がある場合もゼロではなかったので、できる限り在校生に不利にならないように方法を再考していく。 ・参加者のアンケートの要望をできるだけ取り入れ、総合学科の特色の周知に努めたい。
	2 本校の教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。	②③	エ 公開授業および体験授業の充実 オ 中学生向けの出前授業・進路講話の地域を拡大実施し本校に対する関心を高める。 カ 中学校訪問等を通じた、本校の特色や入学者選抜の中学校や中学生への周知	A	・それぞれの行事を通常にもどして、実施することができた。 ・確認の意味も含めて3度メールを送信しても返信されない方が大勢いる。	・引き続き複数回メールを送信し、知らせる。
	3 PTA活動、地域と連携した諸活動を通して学校と家庭、地域社会を結びつけ、生徒が安心して活動し、豊かな経験を積める環境を調える。	③	キ 学校・学年・学級のPTA活動を通じて、学校教育・家庭教育における情報共有と豊かな学びの機会の充実 ク PTA会報などの内容と広報の充実	A	・通年活気のある教育環境を整えることができた。 ・インフルエンザによる学級閉鎖やそれに伴う考查期間の変更もあったが、生徒にも保護者にも迅速に対応し、情報を発信することができた。	・教育活動をWebサイト・インスタグラムで発信していることを、周知していく。 ・ある程度予測される情報を、迅速に正確に収集し伝えてゆく。
	4 毎日の教育活動を通して、コロナ前の活気を取り戻し、いじめや体罰のない生徒一人一人が安心して取り組める教育の環境を整える。	④	ケ 生徒を取り巻く様々な状況の変化に臨機応変に対応できる態勢を コ Webサイト・インスタグラムなどによる教育活動の情報発信	A	・4・6・9・11・2月に進路希望調査を実施し、三者面談・来年度科目選択のための基礎資料として活用していただいている。 ・スタサボ結果について過去4年間の推移を分析、ビジョン委員会を経て職員会で共有した。	・2年生就業体験について、キャリア推と昨年度の就職先などの情報を共有し、受け入れ企業の選定などが行えた。次年度以降も継続したい。 ・総合学科枠を設けている上級学校のようなすなど、各専門科との情報共有をよりいっそう図り、模試も2年冬より受験科目に理社が加わる。入試を意識した科目の選択が望まれる。
進路指導	1 各部署とのつながりを意識し、体系的・組織的に進路指導を行う体制を整えるとともに、職員間での情報共有を図る。	①②	ア 生徒の進路に対する意識の向上と、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを研究、実践する。 イ 新教育課程に対応できるよう引き続き共通テストの情報を収集し、職員間での共有化を図る。 ウ スタディーサポートや模擬試験など学びの基礎診断ツールの効果的な活用を研究、実践する。	A	・桔梗塾として放課後、進路資料室を開放している。学年に関わらず、生徒たちは自主的に学習を続けている。 ・共通テスト4科目。70名強の受験者のうち、3分の1はこれから一般受験に臨む生徒たちである。受験科目のバターンも多岐にわたるので、指導も個別になってしまう。本校での難しさを感ずる。	
	2 自らの目標と進路の実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る。様々な検定試験の受検を奨励する。	①②	エ 桔梗塾などの補習授業や勉強クラブ、各種検定に意欲的に取り組むよう促す。 オ 進路ガイダンス、進路相談会、オープンキャンパス、企業見学会への積極的参加を促す。 カ 「進路通信」「志学の時間」を通して、進路に関する情報を提供するするとともに進路意識の啓発に努める。 キ 一人一人の生徒の状況に応じた進路が実現できるよう支援する。	A		

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
生徒支援	「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ・基本的生活習慣の確立 ・服装・頭髪等の身だしなみを整える ・貴重品の管理, 携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ・交通事故の未然防止 ・人権教育の充実	②③④	ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 ウ 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	B	・生徒動向を職員間で共有し、生徒指導や生徒支援に努めることができた。 ・校内巡視を実施したが、年度当初に盗難が連続して発生した。警察の調査も入りそれ以降は発生していないが、今後も巡視等の対策を続けていきたい。 ・大きな自転車事故が発生した。	・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒指導・生徒支援に努める。 ・校内巡視を引き続き実施し、盗難や授業の中抜け等を未然に防ぐ。 ・ヘルメットの着用を推奨する。また、条例に準じて自転車の保険加入を徹底する。
	いじめを出さない学校づくり ・いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ・常に開かれた相談態勢を整える	③④	エ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 オ HR 担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	A	・ハイパーQIに加えアクセスを実施し、いじめの防止に努めた。 ・専門機関とも連携し対応することができた。	・定期的な面談に加え、ハイパーQI、アンケート、アクセス等を活用し、いじめ防止に取り組む。 ・LHRを活用し、いじめ防止の取り組みを行う。 ・支援の必要な生徒には、相談室を窓口にも各部署・専門機関と連携をとり対応する。
キャリア教育推進	1 総合学科の特徴を活かして社会の変化に対応したキャリア教育を行う。	①②③④	ア 生徒が科目選択などを通じて自己の価値観や可能性を広げられる機会とし、また新教育課程に則したシステムや指導方法などを見直し工夫することができたか。 イ 生徒に社会の変化を踏まえながら自分の将来や社会との関わり、貢献について考えさせることができたか。	B	・科目選択スケジュールを見直し2年目が終わった。講座人数の偏りなど各教科から指導・助言を受けることもあった。 ・ポートフォリオなどの実施により自己への理解を深め、成長を可視化している。	・科目選択については、その意義や仕組みについてさらに時間を掛けて生徒へ伝えていく。また、職員全体で科目選択への共通理解を構築する。それに基づき、選択帯の科目配置については今後さらに検討、改良をする
	2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」を計画・実行する。	①②③	ウ 探究的な学びを通して自己や他者への理解を深めるとともに、自ら課題を解決しようとする姿勢を養うことができたか。 エ 各学年の学習計画および「志学の時間」や「ポートフォリオ」の作成を通じて探究的に学びを深めたり、キャリア観を養うことができたか。	A	・探究的な学びについて目的を学校全体、各学年でつなぐを整理して実施することができた。外部連携をより効率よく展開できた。	・各学年の目的や生徒の進路実現のために必要になる学びを意識しながら、キャリア学習と探究学習を企画することができた。新年度に向けて絶えず見直しをして改善をしていきたい。
	3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力高める。	①②③④	オ 「シオジリ学」を3年間継続的に学習できるプログラムとし、地域資源を積極的に活用した学習を実践できたか。 カ 生徒の活動や学習の成果を広く発信することができたか。	A	・シオジリ学は4年目を迎え地域資源活用から地域貢献を意識した学習になっている。また、小中学校との情報交換なども実施できた。	・シオジリ学については生徒を取り巻く環境の変化に合わせて内容を見直しながら実施していきたい。
生徒会	生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。	①②④	ア 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。	A	・クラスマッチ、文化祭等、各行事を通じてクラス内のコミュニケーションを高めることができた。校外のボランティア活動や各種会議に参加することで、地域との連携など校外に向けた意識もついていた。	・生徒会活動が、人間性を高める上で重要な活動であることを全職員が意識し、連帯間を持って部活動や生徒会行事に携わり、到達目標をより高める。
	生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。	①②④	ウ 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。	A	・「コロナ制限」がなくなった今年度、各企画の立案・企画運営を、前年度踏襲ではなく「やるかやらないか」「なぜやるのか」という原点に立ち返り行った。生徒たちは、今までの先輩達の活動の意味を学ぶとともに、自分達らしい活動を求めて、様々な観点で物事をとらえ活動できるようになった。特に都市大塩尻と共催した「天弓祭」はメディアでも取り上げられ、苦勞が結実した。	・常に意見交換を促し、よりよい活動を求め続ける姿勢を定着させ、全体の意志統一を図る。企画の立上げから片付けまでを計画通りに行う事。卒業までが役員であることの自覚を持つ事。これらを身につけられるように支援していく。壮行会の質を高めるための工夫が課題として残った。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
ICT 図書 視聴覚	1 ICTを活用して学校教育の充実を進める。	②	ア ICTを効果的に使い、生徒の主体的・協働的な学びを促す。 イ 探究活動等におけるICTを活用した指導を推進する。 ウ ロイロノートやGoogle Classroomの多岐にわたる活用を進める。	A	・探究活動等でタブレットやロイロノート等の幅広い活用を推進することができた。 ・より効果的な活用のために、機材を充実させる必要がある。	・Apple、Google、Microsoft各社が提供するサービスやソフトの違いによって生じた不具合や、機械のトラブルに対応できるように、職員間での情報共有を密に行っていききたい。
	2 ICT環境を整えて校務における活用を促進する。	②③	エ 学校ウェブサイトやSNSを通して学校の情報を発信する。 オ 統合型校務支援システムを活用して業務の効率化を図る。	A	・日々の活動の様子や取り組みをあまり多く発信できなかった。 ・掲示板を活用することでペーパーレス化、連絡の効率化につながった。	・学校の情報をもっと発信できるようにSNSの投稿頻度を増やし、ウェブサイトも部活動や日々の活動がわかるページを作成していきたい。
	3 図書館運営の充実を図る。	①②	カ 図書館利用の活性化を図る。 キ 生徒の読書活動の向上を図る。 ク 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 ケ 生徒の探究活動に沿った蔵書の拡充を図る。	A	困っている生徒に対する支援はできたが、利用者数は年々減少傾向にあるので、対策を考えたい。また、Classroom等を活用した図書館の運営をより進めていきたい。	引き続き探求的な学びを深める図書館としての機能を果たせるよう努力したい。図書委員会を中心として図書館利用のさらなる活性化を図り、全校生徒への読書への関心を高める。
	4 視聴覚教育の充実を図る。	②④	コ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。 サ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 シ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。	A	・芸術鑑賞を事故なく円滑な運営をすることができ、生徒と一緒に踊ったり、声を出すシーンは大変盛り上がった。 ・会場内が暑い、音響が大きすぎるなどの意見があり施設との調整が必要だった。	レザンホールが冷房が使用不可だったため事前に服装など調整できるように周知しておく。演出等を把握し、大音量、強い光などが苦手な生徒の座席をずらすなどの対策を取る。
保健 厚生	1 校舎内外の美化・清掃の強化および感染症予防対策	④	ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 イ 清掃および感染症予防対策の継続 ウ 各自が自ら判断して感染症予防対策に取り組める教育環境の充実 エ 生徒が自らの学習環境をより良くするための取り組みとしての花壇整備	A	・ゴミステーション当番、大掃除連絡、モップ交換、感染症予防等、清掃美化委員会・保健委員会と協力し合いよくできた。 ・花壇を作りその基礎が出来てきたのでさらに発展させる。	・日常的な校舎の清掃の徹底を、各委員が更にクラスへ伝達できるようにしたい。
	2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	①②③④	エ 保健委員会と職員の協力体制を強化する。 オ 外部講師の精選と教育方法の研究をする。	A	・ともに職員の協力があり予定通り実施できた。	・来年度も計画通り実施したい。
	3 職員厚生の充実	②④	カ ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	校内でできる最大限の研修を実施し、親睦をはかることができた。	・来年度も研修を実施したい。継続的に親睦会を検討し企画し実施したい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
1 学年	1 基本的な生活習慣の確立	①②③	ア 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。 イ 家庭との連絡が密にとれたか。	A	・遅刻をしないようにと生徒自身が行動できた。	・来年度以降も、機会あるごとに学年集会を行い、指導を図っていく。
	2 学習習慣の確立	①②③	ウ 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	・科目選択を通して、多くの先生から助言をいただき学習への意識が高まった。	・習慣化に向けて、さらなる指導が必要。
	3 相互理解を深める	②③④	オ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	A	・概ね良好である。	・学年間で情報を共有し、多くの職員がかかわっていききたい。
2 学年	1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える	①②③④	ア 学年全体、進路希望別、それぞれの集団での学習活動ができたか。 イ 進路指導部とキャリア推進部の連携によるCPの充実が図れたか。 ウ 個別に学力・生活状況に応じた相談・助言ができたか。	B	・進路希望別に集団を作り、進路指導部とキャリア推進部とが連携してCPやLHRでの学習活動ができた。 ・希望者模試(進学、看護医療)を実施した。	・生徒の進路希望を把握し、やる気を出せるように学習指導を行う。希望者模試の申し込み手続きについては、進路指導部でも検討し、改善案を作ったので順守する。
	2 研修旅行の充実	②③④	エ 平和学習・防災学習の充実が図れたか。 オ 訪問する各地の地理・歴史・文化について理解を深められたか。 カ 互いに協力し自らの責任を果たし、有意義な研修旅行になるように指導できたか。	A	・係が中心となり、講演会を実施したり事前学習で訪問する各地の地理・歴史・文化について学習したりした。平和学習・防災学習も現地ですぐ深く学ぶことができた。 ・係の仕事や、班の役割を互いに協力して行った。	・各教科に対して、事前学習への協力をもっとお願いしてもいいのではないかと思います。 ・科目選択提出前日直前が研修旅行の場合、生徒にスケジュールをよく周知しておくことが必要。
	3 相互理解を深める	③④	キ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。 ク 家庭との連絡が密に取れたか。	A	・人間関係の修復ができない等、問題を抱える生徒が増えた。生徒の相談にのったり、家庭との連絡は密にとることができた。	・生徒支援、スクールカウンセリングや保健室などと連携して、担任1人だけで対処することがないようにする。
3 学年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③	ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図れたか。 イ 個性や適性などに応じた進路指導をできたか。 ウ 多様な入試制度に対応し、受験準備など計画的に活動できるように支援できたか。	A	・キャリアデザインやホームルームをとおして、自らの進路を主体的に考え、実現に向け必要な力をつけることができた。また、全職員により一人一人の進路実現を応援することができた。	・進路決定後も周りへの配慮ができる姿勢を大切できるよう指導していききたい。
	2 コミュニケーション能力の向上	③④	エ 互いに尊重しあえる関係が築けるようにアドバイスできたか。 オ 家庭との連絡を密にとれたか。 カ 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成できたか。	A	・授業、生徒会活動などをとおして、互いに尊重し合える関係やコミュニケーション能力を育成できた。また、家庭との連携を密にとることができた。	・さらに、円滑なコミュニケーションを図る能力を身に着けるために、様々な場面を設定していききたい。
	3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	キ 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援できたか。 ク 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせることができたか。	A	・コロナによる様々な制約がなく、各場面で中心的な役割を担い、充実した学校生活を送ることができた。	・不安定な生徒について、保護者との連絡と教員間の情報共有を密にして、指導していききたい。